



PEACE 派遣留学報告書

		記入日	2017年10月12日
氏 名	ふじい しょうた 藤井 翔太		
所属学部・研究科	教育	学部 2	年次 (留学開始時点)
学 生 番 号	B163260		
留 学 先 大 学	王立ブノンペン 大学 (国名:カンボジア)		
所属学部・学科等名			
在 籍 身 分			
留 学 期 間	2017年8月28日～ 2017年9月13日		

1. 留学するまで

留学しようと思ったきっかけ・理由	食事の席でチューターの先生から、カンボジアに興味がないかと尋ねられ、あると答えたのがきっかけでした。そして折角の機会なので、本プログラムに参加してみようと思いました。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	準備というのが留学先での計画等も含まれるのであれば、それは2ヶ月ほど前から始めました。その後、グローバル担当の桑山先生と何度も話し合い、留学先の学生とも連絡を取りながら、準備を進めていきました。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	留学先では、ほとんどすべて英語でのコミュニケーションだったのですが、英語の力をもっと持ってから行くと、現地で吸収できるものの量や質は違ったかなあという気はします。なので、渡航前に英語の力、特に聞く力をもっと高めておけばよかったと感じます。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: 観光ビザ
	ビザ申請先: カンボジア
	提出書類: パスポート、30USD
	手続きに要した日数: 0日
その他必要な事前手続き	なし
出国年月日	2017年8月28日
経路(往路)	広島空港から成田空港、成田空港からブノンペン国際空港
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有(大学関係者・その他) <input type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	3日目に
帰国年月日	2017年9月13日

経路（復路）	プノンペン国際空港から成田空港、羽田空港から広島空港
--------	----------------------------

3. 留学費用について

支出額	総額	約 64,140	円	
	内訳	渡航費（航空券）	0	円（広島大学負担）
		保険料	6,140	円
		教科書代（学費）	0	円
		宿舍費	13,000	円
		光熱費	0	円
		食費	20,000	円
		交通費（宿舍－大学間）	0	円
		交際費		円
		その他（博物館等の入場費） （土産費） （その他の交通費）	10,000 10,000 5,000	円 円 円

4. 授業について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	正式な授業は受けていませんが、RUPP の教育学部の教授の方に一对一のディスカッション形式の講義をしていただきました。それ以外は基本的にフィールドワーク型の学習となっていたので、授業は受けていません。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	授業は履修していないので、アドバイスできることは特にありません。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（ゲストハウス）		
住居の広さ	約 20㎡	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有（人） <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（ ）		
住居費	1ヶ月当たり	450 USD(現地通貨)	約 54000円
留学先での住居全般に関するアドバイス	カンボジアの宿泊施設は高級ホテルから格安のゲストハウスまで様々ですが、あまりに安すぎる場所は治安上危険だと思います。一泊 15 ドル～30 ドルぐらいが適切だと思います。		
(2) 医療について			
留学先でかかった病気、けが	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		

有の場合、具体的な症状等（情報共有しても差し支えなければ）	シエムリアップ郊外の農村でホームステイをしていたとき、高熱が出ました。原因はよくわからないのですが、その日はプノンペンに帰る移動日だったのでそのままバスに乗りました。プノンペンに着いて次の日にゆっくり休むと、徐々にですが熱は下がっていきました。
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：食あたりは何度かあり、そのたびに腹痛を起こしました。東南アジア地域で食あたりを防ぐのは難しいとは思うので、正露丸などの薬を持って行くなどして対処した方がよいと思います。
留学先国の医療事情（日本と比較して）	病院に行っていないのでわかりません。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	やはり東南アジアという地域上、水道の水の衛生状態は日本とかけ離れていると思った方がよいです。私の場合、水道水で顔を洗うと荒れてきたので、ミネラルウォーターを購入して顔を洗っていました。もちろんですが、水道水を飲むことはできません。また、シャワーも基本水しか出ないので、部屋の冷房を強くしすぎると風邪を引くことになるかもしれません。
(3) 食生活についてのアドバイス	
カンボジアの食事は人それぞれだと思いますが、正直私の口にはあまり合いませんでした。主食は主に米と魚で、肉料理も多かったです。基本的にすべて焼いたものばかりで、市場や街中に焦げ臭い匂いが漂っていました。食事は基本的にスプーンとフォークで行い、出された食器をテーブルにある、キッチンペーパーで拭くのが通例でした。中には日本で見ないような食べ物、例えばカエルなどもありますが、良い経験なので勇気を出して食べてみるのもいいかもしれません。	
(4) 服装についてのアドバイス	
気候帯としてはこちらは熱帯になるので、基本的に夏服で事足りるかと思います。ただ、田舎の地域に行くときなどには、虫などを警戒して長袖、長ズボンを着用した方がよい場合もあります。夜も蒸し暑く、昼夜の温度差はあまりありません。また、雨季に行かれる場合は突然スコールが降りだすことがあるので、折りたたみ傘や雨ガッパを持って行くのと役に立つと思います。	
(5) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む）	
プノンベン大学内や主なレストランなどには、Wi-Fiは完備されていました。また、私が住んでいたゲストハウスも自由にインターネットを使うことができたので、特に不都合はありませんでした。しかし、ホームステイした農村では全く電波が飛んでいなかったため、1日以上ネットに接続できませんでした。なので、都市以外に長く滞在される場合は、ポケットWi-Fiなどがあると、常時ネットに接続できて色々楽かもしれません。	
(6) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？）	
私の場合、同じくプノンベン大学から交換留学で来ているカンボジア人の学生と日本にいる間に連絡を取り合い、準備を進めました。また、カンボジアに着いてからもその学生にアンコール遺跡を案内してもらったり、学校訪問の段取りをってもらったりしてもらいました。また、その月から広島大学に留学するという学生とも現地で会い、マーケットに連れて行ってもらったりしました。	
(7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
これはガイドブックなどにも書いてあることだと思うのですが、カンボジアでは子どもであっても、頭を撫でることはしてはならないことになっています。頭の上には霊がいると考えられているらしく、そこを撫でることはタブーとされています。また、トイレに基本的にトイレトペーパーがないので、日本から持って行くことをオススメします。	
(8) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの	

先ほど挙げた雨具や正露丸、トイレトペーパーを含めて、体調を崩したときようにポカリの粉や冷えピタを持っていくと便利です。また、おしぼりを常に店でもらえるとは限らないのでウェットティッシュを持って行くことを勧めます。向こうの人たちに何かお土産を買って行く場合は日本の製品は大変気に入られるので、なんでも喜ばれると思います。バイクが多く走っているので、排気ガス防止用のマスクもあると助かります。

(9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

カンボジアはとても危険な国と思われがちですが、僕の印象ではそうは感じませんでした。しかし、特に夜には泥棒が現れたりするということは聞いていたので、気を向くことはできませんが。海外である以上、日本のように気を向くことはもちろん危険ですが、それ以上に行く前から過度に気を張る必要はないかと思います。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2020年 3月 (当初の卒業予定年月 2020年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	現段階では、大学院に進学しようかと考えています。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	私の場合、2年次に行き、また2週間という比較的短い期間の渡航だったため、それらの障害にあうことはありませんでした。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
地球の歩き方	ダイヤモンド社	定番のガイドブックですが、それだけに役立ちます。

8. 留学を振り返って

留学を終えての感想：

今までしたことのない様々なシアな経験をする事ができたので、行ってよかったと今では思っています。途中から初めて一人で海外で生活し、留学中は熱を出したり、初めて研究報告書を書いたりとしんどいことを多く経験しましたが、その分その経験値はしっかり身についたと思います。

後輩へのメッセージ：

カンボジアはとてもいい国です。日本とはインフラも文化も何もかも違いますが、皆温かく優しい人々が多いという印象です。世界遺産として非常に有名なアンコール・ワットもあります。多くの方はカンボジアには縁がなく、どいう国か想像することは難しいかもしれませんが、しかし、このような機会でないで行くことは少ないと思うので、是非一度行ってもらいたいと思います。

9. 自由記述 (1200字以上)

- ・「学習に関すること」や「生活に関すること」について自由に書いてください。
- ・写真を2~3枚貼り付けてください。(各写真の容量を100KB程度まで小さくすること)

私はこの2週間のカンボジアへの留学で、様々なことを経験し学びました。

まずメインの勉強の面では、今回の2週間で3つの小学校を訪問させていただきました。1つ目はミッション系の小学校、2つ目は都市の公立小学校、そして3つ目は田舎にある公立小学校です。そのうち、ミッション系の小学校と都市の公立小学校ではその校長先生にインタビューをさせていただき、田舎の公立小学校では夏季休業中にもかかわらず、児童を集めていただいて特別に授業をしていただきました。インタビューでは事前にカンボジアの初等教育に関する資料を読み、そこで疑問に思ったことをはじめ、日本にいた頃からの素朴な疑問なども聞かせていただきました。田舎の小学校の授業観察では、小学校4年生の英語の授業を観察し、日本のそれとの違いを分析しました。授業後にも、実際に現職の先生にインタビューをする時間をいただき、資料にあった問題などが実際に現場で起こっているのかなどを中心に尋ねさせていただきました。その後、それらの学校訪問で得たことやいただいた資料で得たことなどを踏まえて、初めて研究報告書を書きました。もちろん、書式やマナーなどの知識は皆無だったので、当時タイにいらっしゃった担当の桑山先生にメールで何度も添削してもらい、最終日に報告書の内容をプノンペン大学の先生方にプレゼンさせてもらったのですが、自分の脇の甘さを多々指摘され、学問の厳しさを肌で体感しました。その時は学部生で今まで研究報告書など書いたことのない人が書いたものにそこまで突っ込むかと不満も垂れましたが、しかし世界レベルの学問を体感できたことはとてもいい経験になったと思っています。これから勉強を重ねて、少しでもあそこにいた先生方に近づけるようになりたいと思いました。

また、今回の留学は最初の数日は担当の桑山先生と一緒にいてくださったのですが、その後は桑山先生も仕事で日本に帰られて、残りの10日ほどは1人で生活することになりました。以前STARTプログラムでベトナムに行った際には一緒に行った日本人学生も多かったのですが、英語を使う機会は多くなかったのですが、今回は1人ということで、もちろん日本語は通じないので(ありがとうぐらいは通じましたが)、人とコミュニケーションを取るためには英語を話すしかありませんでした。外ではネットが繋がらないのでとても苦労しましたが、そのおかげで英語の話す力と聞く力は以前に比べて成長したと実感しています。もし、英語圏やあるいはそうでない国でも、単独で行ったら絶対に英語がペラペラと話せるようになるだろうなという確信もいきました。

そして、今回の留学で得た一番大きいと自分が思うものは、自信だと思います。海外で1人で生き抜き、帰ってこれたという自信です。実際、帰ってこれたら絶対に自信になるということは、行く前からこのことを自分の中で確信していたところはありませんでした。ここで得られた自信はこれから何かにチャレンジしたりする上で、海外で1人で生きて帰ってこれたのだからこれくらいできるだろうと、いい意味で自分を後押ししてくれるものになったと思います。カンボジアで様々な経験をしました。そこでカンボジアの教育や歴史など多くのことを知識として学び、自分の世界が広がりました。もしかするとこの知識は年々自分の中で薄くなって行くかもしれませんが、しかし、この自信は自分の中に残り続けると思います。